

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 【学校像】

「高い志」を持ち、既存の枠を超える、新たな価値を生み出す真のリーダーを輩出する学校。

## 【生徒に育みたい力】

- 基礎・基本の充実と深い学びを通じて未来を拓く力を養い、「高い志」を持って世界に貢献できる有為な人物を育成する。
- ハイレベルな授業を通じて、進路実現を可能にする高い学力とのびやかな知性を育む。
- 生徒の自主性を重んじ、互いの協力や切磋琢磨を通じてたくましい人間力を育成する。

## 2 中期的目標

○ グローバルリーダーズハイスクールとして、本校の3つの教育目標を深化させる取組みとともに学校の組織力の向上のための取組みを実践する。

## 1 「高い志」の涵養

- (1) 「高い志」を涵養するための取組みを継続発展させる。
- ア 課題研究等を通じて主体的に学ぶ意欲と姿勢を育み、大学での学びにつなげる。
- イ 卒業生人材ネットワークを拡大し、大学等と連携する等、卒業生による支援体制を強化する。
- ③ 大学教授、企業等で活躍する卒業生等による「卒業生講座」「学問発見講座」。 ④ 京都大学を中心とした「卒業生研究室訪問」。
- ③ 関東方面への大学等見学会「東京スタディツアー」。 ④ 第1学年対象の「スプリングセミナー」。
- ⑤ 第2学年対象の「オータムセミナー」。

※スーパーグローバル大学及びグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数合計150名以上を維持する。

(平成30年度(平成31年度入試):157名、令和元年度(令和2年度入試):151名、令和2年度(令和3年度入試):173名)

※高等学校卒業時の進路選択について納得している生徒の割合90%以上を維持する。(平成30年度:91%、令和元年度:90%、令和2年度:96%)

## 2 「枠を超える知性」を備えた真のリーダーの育成

- (1) 部活動を通じてリーダーとしての資質を高める。
- ア リーダー育成研修を継続させる。
- イ 理学療法士による部活動サポート事業を継続発展させる。
- (2) グローバルに視点を置いた取組みを継続発展させる。
- ア 海外宿泊野外行事及びその事前・事後学習、またその他さまざまな国際交流行事について、生徒自らが主体的に企画・運営することを通じて、多様な受容力を鍛え、コミュニケーション能力を高める。
- イ 英語教育の内容をよりいっそう充実させる。
- ※海外宿泊野外行事終了後の生徒アンケートにおける満足度90%以上(平成30年度:97%、令和元年度:99%、令和2年度:コロナ禍で未実施)

## 3 「自主自律の精神」の育成

- (1) 生徒会活動、部活動、学校行事を中心に、互いに違いを認めあい共に生きる力、協調性、豊かな感性を育む。
- (2) 地域と連携した活動を通じて、地域とつながるこころを育む。
- ※地域と連携した活動等への参加回数生徒一人当たり平均年間1.0回以上となるようにする。
- (平成30年度:生徒一人当たり平均年間0.8回、令和元年度:生徒一人当たり年間1.0回、令和2年度:コロナ禍で未実施)
- (3) 自主的な読書活動の支援を通して自学自習の精神を育成する。
- ※1, 2年生の一年間の読書量一人当たり平均10冊以上を維持する。
- (平成30年度:一人当たり平均13冊、令和元年度:一人当たり平均15冊、令和2年度:一人当たり平均14冊)

## 4 学校の組織力の向上

- (1) 新型コロナウイルス感染症の対応を含む危機管理力の向上を図る。
- (2) 教員の授業力の向上を図る。
- 具体的には、ICTを活用した取組みの推進・観点別評価の試行実施・研究授業の実施・相互授業見学の充実・大学等との連携の深化
- ※授業観察の際の生徒アンケートにおける授業信頼度平均88%以上を維持する。
- (平成30年度:平均88%、令和元年度:平均89%、令和2年度:平均93%)
- (3) 働き方改革の推進を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒版】</b></p> <p>・「学校に行くのが楽しい」92%、「学校生活についての先生の指導には納得できる」96%、「将来の進路や生き方について考える機会がある」98%、「先生は、はじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」97%、「担任の先生以外にも、気軽に相談できる先生がいる」76%、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」92%と、それぞれの設問に対する肯定的回答が高い数値を示しており、コロナ禍においても、生徒たちが教員との信頼関係を築きながら、「今できること」を工夫しながら、充実した学校生活を送っていることがうかがえる。今後も引き続き、生徒の「高い志」を涵養するための取組みや、教育相談体制も含む生徒指導を充実させていくことが大切である。</p> <p><b>【保護者版】</b></p> <p>・今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、行事や取組みが中止や内容の変更を余儀なくされ、保護者が来校する機会も少なく、回答が困難な中でも、多数ご回答いただいたことはありがたいことであった。</p> <p>・本校のさまざまな取組みについて、高大連携に関する設問(99%)をはじめ、肯定的回答が高い数値であり、保護者に高い割合で支持されていることがうかがえる。今後もさらにそれぞれの取組みを充実させていくことが必要である。</p> <p>・「生徒は、授業がためになると言っている」という設問に対する肯定的回答は92%(昨年度92%、一昨年度89%)であった。引き続き、生徒、保護者の授業への信頼度を高めるため、教員の授業力向上のための取組みの内容をよりいっそう深めていくことが必要である。</p>	<p>第1回(令和3年6月12日(土))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒1人1台端末の配備や観点別評価等、新しいことが導入されていくが、それを活かすためにも、茨高としてのしきみを工夫して作っていくことが大切である。</li> <li>・コロナ禍において、中止を余儀なくされる行事、取組みもあるが、この状況は、何か新しいことができる可能性を秘めた状況だともいえる。</li> </ul> <p>第2回(令和3年10月16日(土))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「オンライン」を利用することが身近になってきたが、今後は、「対面」での取組みができないから、というのではなく、もう一つの可能性として積極的に取り入れていくべきではないか。</li> <li>・「学びを縦につなぐ」(生徒は先輩の背中を見て学ぶ)という茨高の一つの特徴をこれからも大切にしてほしい。</li> </ul> <p>第3回(令和4年2月19日(土))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題研究」について、研究のジャンルも多岐にわたっており、大変興味深い。ぜひ、研究の成果を、学校以外の地域へも発表する機会を設けてほしい。高校生から発信することで、自分たちが学んだことを地域貢献として活かすことができるのではないかと。</li> </ul>

## 府立茨木高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 高い志の涵養	(1) 「高い志」を涵養するための取組み ア 課題研究の充実 イ 卒業生との連携の強化による取組みの充実	(1) ア 大学の先生等の協力を得ることによって、2年生全員を対象として実施する課題研究の質を高める。 ・課題研究の発表の場を近隣の高校の先生方に公開する。 イ 本校卒業生の人材ネットワークを広げ、学問及び社会に対する興味・関心を高める取組みを充実させる。 ・卒業生講座及び学問発見講座を継続させる。また、「スプリングセミナー」「オータムセミナー」等も含めて、卒業生によるキャリア教育に資する講演会や講座を実施する。 ・京都大学を中心に卒業生の研究室訪問を継続する。 ・関東方面への大学等見学会を継続させる。その際の卒業生との連携を強化し、より広い視野で進路を考える場とする	(1) ア・大学の先生等に課題研究や課題研究につながる授業に協力していただく回数(のべ)20回以上[58回] ・近隣の高校から参加の先生方の人数5人以上(新規)(今年度から実施) イ・キャリア教育に資する卒業生の講演会や講座の数10以上[卒業生の講演会2回卒業生講座は22講座] ・卒業生の研究室訪問10か所以上[中止] ・関東方面への大学等見学会の参加生徒15名程度、支援する卒業生15名以上[中止] ・各取組に対する生徒の満足度90%以上[学問発見講座97%、卒業生の研究室訪問及び関東方面への大学等見学会は中止]	(1) ア・京都大学大学院文学研究科、九州大学大学院教授、京都大学人文科学研究所准教授、大阪市立科学館学芸員、立命館大学理工学部准教授等のご理解を得て、課題研究や課題研究につながる授業に1月末までにのべ50回協力していただいている。 (◎) ・校内発表会時、近隣高校から1名の先生が参加(一) イ・卒業生の講演会は2回、学問発見講座は14講座卒業生講座は10講座で実施した。(◎) ・京都大学を中心とした卒業生の研究室訪問及び関東方面への大学見学会は社会状況に鑑み中止。(一) ・学問発見講座、卒業生講座に対する生徒の満足度はともに96%であった。(◎)
2 枠を越える ダ知性の を育成 えた	(1) リーダー育成プログラムの充実 ア リーダー育成プログラムⅠの充実 イ リーダー育成プログラムⅢの充実 (2) 「グローバル」に視点を置いた取組み ア 生徒主体の宿泊野外行事及び種々の国際交流行事の取組み イ 英語教育の内容の充実	(1) ア 各部・同好会等の部長等に対して、リーダーとしての資質を高めていくプログラムを充実させる。リーダー論やコーチングの手法、人間関係トレーニング等についての講演等を実施する。 イ 部活動に参加する部員を対象に、理学療法士による指導・支援を定期的に実施し、健康を自己管理する能力を高めるとともに、高い志を持ち、諸活動において良い結果を出せるよう取り組む。 (2) ア・第2学年の宿泊野外行事については、グローバルな視点も取り入れ、地域等との交流や地域の歴史・文化の理解を深めるための事前・事後学習等も含めて、生徒が主体的に取り組む。 ・長期留学生の受入れ、海外からの研修旅行生との交流、第1学年全員を対象とした大阪大学等の留学生との交流(B&S)について、生徒が主体となって異文化理解や他国理解を深める。 イ・英語の授業を通じて、英語でのプレゼンテーションやディベートのスキルを向上させる。 ・「英語イマージョンプログラム」を実施し、英語運用能力を高める。 ・外国人大学生とSDGsの課題解決に向け、英語で議論する「Beyond_iプログラム」を実施し、リーダーシップ・思考力・課題解決能力を高める。	(1) ア・リーダー育成プログラムⅠの実実施回数10回以上[11回] ・参加生徒のアンケートにおける満足度80%以上[97%] イ・リーダー育成プログラムⅢの実実施回数5回以上[8回] ・参加クラブ数10以上(新規) (2) ア・宿泊野外行事終了後の生徒アンケートにおける満足度90%以上[未実施] ・交流する大阪大学等留学生数50名以上[22名] イ・授業後における生徒の満足度80%以上[96%] ・英語イマージョンプログラム実施後の生徒アンケートにおける満足度90%以上[100%] ・「Beyond_iプログラム」実施後の生徒アンケートにおける満足度80%以上[100%]	(1) ア・4月から1月までに11回実施し、のべ518名の生徒が参加した。(○) ・外部講師による講演の満足度は100%であった。(◎) イ・5月・9月が新型コロナウイルス感染拡大のため中止となり、7月・11月・1月に3回実施した。(一) ・参加クラブ数は、個別指導では6、7月の熱中症予防講習会には全43のクラブ代表者と、体育祭各団総長が参加した。(○) (2) ア・宿泊野外行事終了後の生徒アンケートは99%。(○) ・B&Sプログラムをコロナ禍で困難な中、25名の留学生が参加し、リモートで工夫しながら、生徒と十分交流できた。(○) イ・授業における生徒の満足度は95%。(○) ・英語イマージョンプログラム実施後の生徒アンケートにおける満足度は96%であった。(○) ・「Beyond_iプログラム」は3月に実施、生徒の満足度は100% (○)
3 自主 精神 の 律 育 の 成	(1) 生徒会活動、学校行事における取組みの充実 (2) 地域とつながるこころの育成 (3) 自学自習の精神の育成	(1) 生徒会執行部を中心とする生徒議会、各種委員会の活動を指導・支援し、生徒自治による体育祭、文化祭等の学校行事の取組みを充実させる。 (2) 生徒に地域と連携した活動等への積極的な参加を推奨し、地域とつながるこころ、自主自律の精神の育成をめざす。 (3) さまざまな分野の書物を定期的に紹介する等、読書指導を推進し、自主的な読書活動につなげることでより自学自習の精神を育成する。	(1) 生徒対象の学校教育自己診断における体育祭及び文化祭についての設問に対する肯定的回答90%以上[体育祭中止、文化祭91%] (2) 参加した地域活動の種類50以上(新規) (3) 生徒一人当たりの平均読書量年間15冊以上[14冊]	(1) 体育祭に対する肯定的回答、文化祭に対する肯定的回答は、ともに95%であった。(◎) (2) 1月現在、参加した地域活動の種類は15であるが、コロナ禍で制限の多い中、323名の生徒が参加している。(△) (3) 生徒一人当たりの平均読書量は9.2冊であった。(△)
4 学校 の 組 織 力 の 向 上	(1) 危機管理能力の向上 (2) 授業力向上のためのシステムの充実 (3) 働き方改革の推進	(1) ア 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスクの着用、手指の手洗い・消毒、三密を避ける指導の徹底を継続する。また、休校等に備えて、オンライン授業ができるように準備を整える。 イ いじめ・虐待等の生徒事案の対応及び未然防止を行うとともに、教育相談体制の充実を図る。 ウ 「教職員の不祥事の防止(体罰・セクハラ等の防止を含む)」、「個人情報の適正な管理」及び人権に関する教職員研修を行う。 (2) ア 一人一台端末の導入に向けたICTを効果的に活用した授業実践及び主体的・対話的で深い学びを推進するための研究、実践や大学等との交流をさらに進める。加えて各教科において観点別評価の試行を行う。 イ バディシステムを継続実施及びグループウェアソフトを利用したオンライン互見授業の実施により、教員の授業力を向上させる。 ウ 全教員の授業観察の際に、管理職によるアンケートを生徒に実施・分析し、授業アンケートとともに授業力を把握する材料とする。 (3) ア 全校一斉退庁日及び週1回のノークラブデーを徹底する。 イ 「働き方改革」の方策を検討するための核となる会議で学校行事の効率化、業務の省力化について議論する。	(1) ア 始業式・終業式ごとに、また、緊急事態宣言等が発出された時行う。加えてクラブ代表者会議等を通じても行う イ・安全・安心アンケート年2回、いじめアンケートを年間1回実施(新規) ・教育相談に関する事例検討会議3回以上(新規) ウ 「教職員の不祥事」、「個人情報の適正な管理」及び人権に関する教職員研修3回以上(新規) (2) ア・ICTの効果的な授業実践及び主体的・対話的で深い学びを推進するための研究授業年10回以上[1回] イ・互見授業教員一人当たり平均年2回以上[2.3回] ウ・生徒からの授業信頼度88%以上[93%] (3) ア 教職員に随時、退庁の呼びかけを行う イ 会議年5回以上開催 職員会議の資料電子データでの共有率20%以上[20%]	(1) ア 新型コロナウイルスの感染状況に応じて、感染予防について生徒への指導を行い、健康観察カード等を用いての健康管理を促した。また、オンライン授業の準備も順次行い、やむを得ず出席できない生徒への授業のWEB配信を実施した。(○) イ・安全・安心アンケートを7月と12月の2回、いじめアンケートを10月に実施し、いじめ・虐待等の実態把握を行った。(○) ・精神科医を交えた事例検討会5回実施(○) ウ・「教職員の不祥事」、「個人情報の適正な管理」及び人権に関する教職員研修を3回実施した。(○) (2) ア・ICTの効果的な授業実践及び主体的・対話的で深い学びを推進するための研究授業については4回。(△) イ・互見授業教員一人当たり平均回数は3.9回。(○) ウ・生徒からの授業信頼度は95%であった。(◎) (3) ア 毎週火曜日を一斉退庁日とし、呼びかけを行った。(○) イ 「働き方改革」に関する会議を15回開催し、業務の効率化を図った。(◎) 職員会議の資料電子データでの共有率は20%。(○)

